

鎌倉幕府の滅亡から小田原北条五代の盛衰を書いた軍記物語です。豊臣秀吉によって滅ぼされるまでの過程が書かれています。



北条記

北越軍談

上杉氏関係の軍記物です。全五十一巻からなり、元禄十一年（二六九八）に駒谷散人郁が著述しました。後に関東古戦録をまとめた横島昭武と思われませんが、詳細は不明です。川中島をめぐる武田氏の記事も多く、信玄と謙信の一騎打ちを記述しています。



関東古戦録(関八州古戦録)

河越夜戦から後北条氏滅亡までの、戦国時代の合戦や外交情勢などが記されています。江戸時代後期（十八世紀）横島昭武が収集した戦記をまとめたもので、比較的良好な史料として評価されています。



北越軍記

「北越太平記」とも言われ、上杉謙信・景勝二代の軍記をまとめたものです。兵学者・宇佐美定祐の著作と思われ、軍事的な立場からの記述が多く、武田氏との川中島合戦については詳細で、後世の軍記が多く参考になっていると言われていますが、地名・人名や事実関係の誤りも多いと指摘されています。



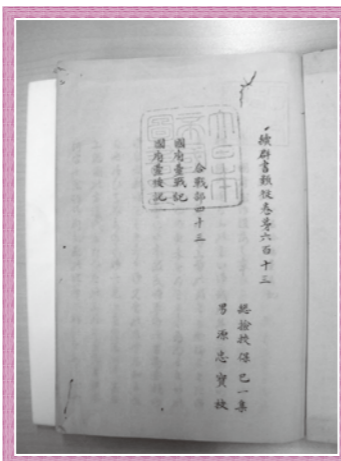
管窺武鑑

夏目定房が著した上杉家および家臣などの功績等を記したものです。氏邦の家臣で沼田城代の藤田信吉の事績についても記されていますが、一部誤りがあることが指摘されています。



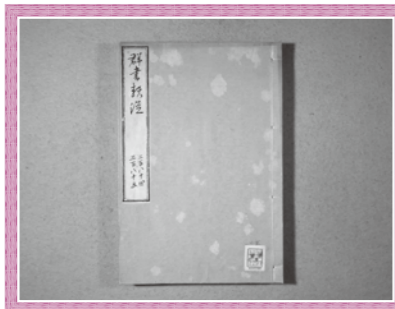
鴻台後記(国府台後記)

永禄七年に国府台で繰り広げられた、二回目の里見氏と北条氏との合戦の記録です。氏邦の活躍が記されています。



甲陽軍鑑

武田信玄を中心に、武田家や家臣団の逸話や事跡の紹介、軍学などが雑然と構成され、江戸時代には江戸を始め各地で読み物として親しまれました。史料価値は低いとされていますが、近年では部分的に信憑性が高まり、再評価されています。



群書類従(相州兵乱記)

戦国時代の関東の歴史と合戦について、一五〇〇年代後半鎌倉公方から武田氏の箕輪城攻めまでを記した書です。後北条氏を中心としており「永享記」「北条記」等との関連が見られます。

忍びの旗挿絵

「忍びの旗」は池波正太郎の歴史小説で、鉢形城が主な舞台となっていて、北条氏邦に仕えた甲賀忍者・上田源五郎を取り巻く人間模様を中心に描かれています。昭和五十二年の新聞の夕刊に連載されましたが、そのときの挿絵の原画を展示します。描いた画家は、今年百歳を迎えた中一弥氏で「鬼平犯科帳」「剣客商売」「仕掛人・藤枝梅安」などの池波作品にも挿絵を提供しています。



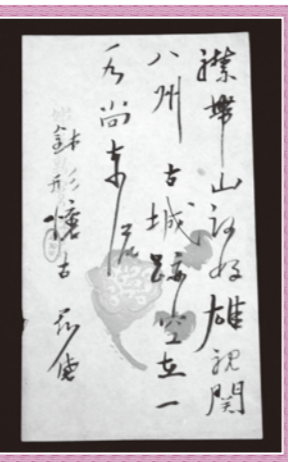
忍びの旗挿絵(騒然とする城内)



忍びの旗挿絵(炎上する鉢形城)

田山花袋に関する資料

鉢形懐古の漢詩は花袋のお気に入り、友人たちに直筆の色紙を配っていたようです。左の絵葉書は、寄居の古い街並みが印刷されたもので、花袋が子どもたちと寄居を訪れた際、子どもたちが家で待つ母親（花袋夫人）あてに送ったものです。



田山花袋漢詩

花袋の子どもが出した寄居町の絵葉書



協力機関の紹介

国立公文書館

国の行政機関などから移管を受けた、歴史資料として重要な公文書等の適切な保存と、一般の利用を図ることを目的とした施設で、千代田区北の丸公園にあります。興味のある方はぜひお出かけください。平日のみの開館ですので、ご注意ください。

埼玉県立文書館

埼玉に関する歴史的・文化的に価値のある古文書、行政文書、地図などの資料を体系的に収集し、整理・保存を行い、その活用を図りながら、県民共有の財産として永く後世に伝えることを目的とする施設で、県庁の西側にあります。古地図や航空写真なども閲覧することが可能です。月曜日と祝日が休館です。

さいたま文学館

県にゆかりのある文学者の作品や文学関係の資料を収集・保存・展示し、文学の振興を図り、県民の文学活動の拠点になることを目的とした施設で、桶川市が設置する桶川市民ホールとの複合施設として、一体的に運営されています。月曜日と第4火曜日が休館です。

池波正太郎真田太平記館

「真田太平記」「真田騒動」を始めとする真田一族に関する作品を残した作家として有名な池波正太郎氏の記念館です。長野県上田駅から近く、市内の観光施設になっています。水曜日が休館です。

田山花袋記念文学館

出身地の館林市にあり、花袋の資料の収集・保存・展示を行い、その生涯と文学的業績をさまざまな角度から紹介している施設です。月曜日と祝日の翌日が休館(月曜日が祝日の場合は開館)です。

開催します! 三味線の会

11月3日(木・祝)鉢形城歴史館中庭で午後2時と3時の2回に分けて「三味線の会」を開催します。ぜひ、ご来館ください。

